

徳山ダム(水資源機構)・横山ダム(中部地方整備局)連携による洪水調節効果 【平成26年8月10日 台風第11号による出水】

徳山ダムと横山ダムの連携操作で水位を約2.0m低下 大垣市の浸水被害を回避！

- 徳山ダムと横山ダムの連携による防災操作により水位を2.0m低下(万石地点)させ、浸水被害を回避 (ダムが無い場合の水位は、計画高水位を約50cm超過)
- これにより、浸水面積約2,700ha、約6,100億円の被害を防止
- あわせて、大垣市民病院等の医療施設の機能低下及び、国道258号線、養老線の浸水による交通途絶等の被害を防止

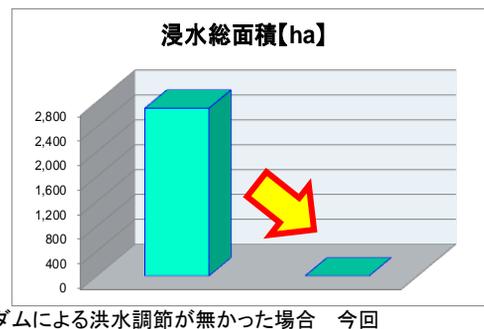
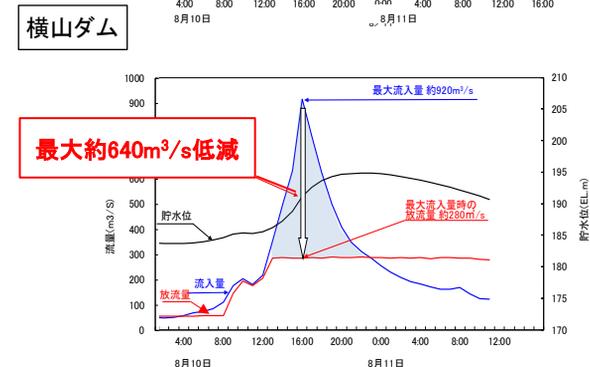
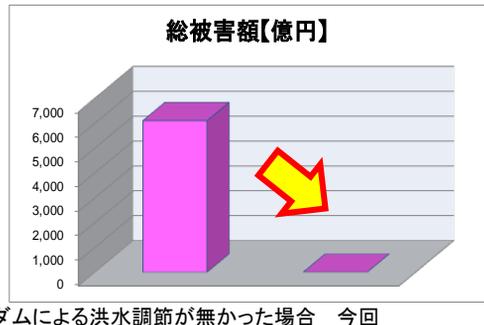
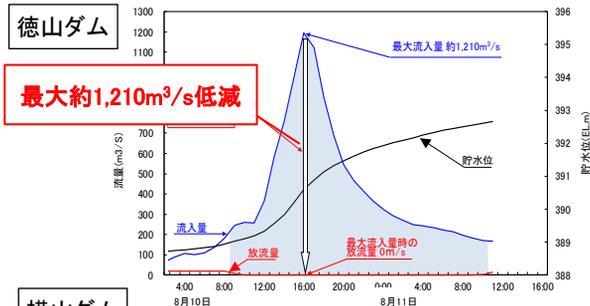
方石地点 (河口から40.6km)



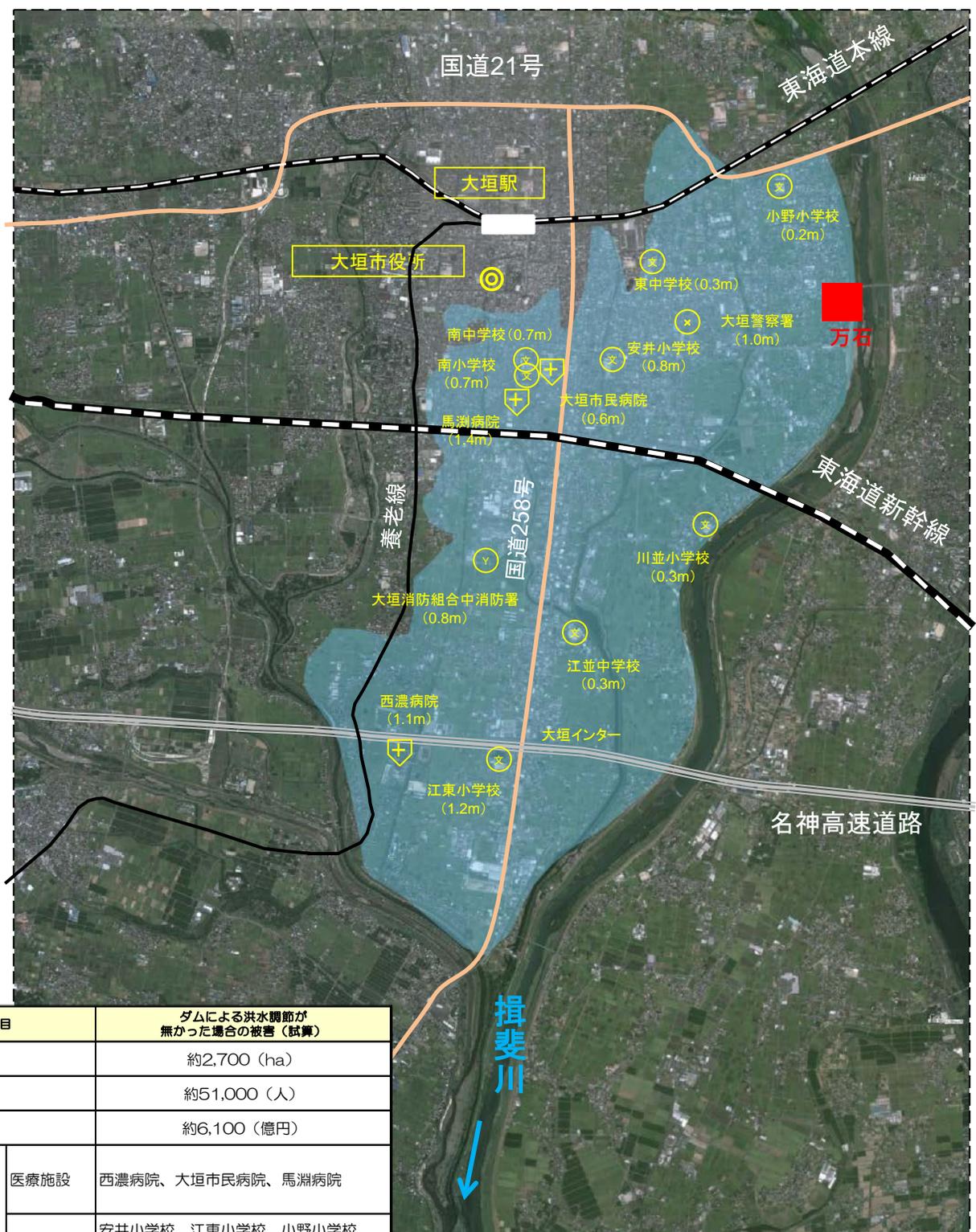
水位を約2.0m低下させ、はん濫を回避



徳山ダム・横山ダム連携による洪水調節



約2.0mの洪水位低下により堤防の決壊及び大垣市内への洪水氾濫を回避
 【平成26年8月10 台風第11号による出水】



項目		ダムによる洪水調節が無かった場合の被害（試算）
浸水面積		約2,700 (ha)
被災人口		約51,000 (人)
想定被害額		約6,100 (億円)
主な公共施設	医療施設	西濃病院、大垣市民病院、馬淵病院
	小中学校	安井小学校、江東小学校、小野小学校、川並小学校、南小学校、江並中学校、東中学校、南中学校
	交通機関	国道258号、県道大垣一宮線、養老線等
	警察署	大垣警察署
	消防署	大垣消防組合中消防署

※ 施設の後に記載している()書きの数値は、想定浸水深である。

<浸水想定計算条件>
 ・仮に徳山ダム、横山ダムが無かった場合、万石地点において計画高水流量(約3,900m³/s)を超えた洪水流量(約4,400m³/s)になったものと試算。
 ・この流量が流下し、揖斐川右岸において危険となる1地点(右岸河口から約36km地点)で決壊・はん濫した場合の浸水想定エリアを試算。
 ・浸水想定エリア内における人口、資産額、主な公共施設等を集計。(治水経済マニュアル(案)平成17年4月)を参考)
 ・シミュレーションの実施に当たっては、支川のはん濫、高潮、内水によるはん濫等を考慮していないので、このエリアに含まれていない区域においても浸水が発生している場合がある。
 ・シミュレーションは、大垣市内等のエリアを約100m格子(計算メッシュ)に分割して、これを1単位として計算しており、また、浸水範囲及び浸水深は航空レーザーデータを基に作成した平均地盤高を使用。